

「^{あさむし}浅虫^{むし}の虫」

2014年夏に海城中学校・高等学校がセンターを利用して臨海実習・野外実習を行いました。石塚泰啓教諭、関口伸一教諭の指導の下、野外実習では生物部の生徒達がさまざまな方法で陸棲の動物を観察しました。生物部所属の千代田創真さんは浅虫周辺の昆虫の写真を撮り、その分類と解説文を執筆しました。ここでは「浅虫の虫」として、その成果を発表します。

節足動物門 ARTHROPODA

昆虫綱 Insecta



モノサシトンボ *Coperia annulata*

トンボ目モノサシトンボ科。体節ごとの模様がものさしのようなことからこう呼ばれる。薄暗い湿地を好む。



タカネトンボ *Somatochlora uchidai*

トンボ目エゾトンボ科。胸部の緑色光沢が美しい。全国的に広く分布するが、比較的涼しい気候を好むようである。薄暗い湿地を好む。



アキアカネ *Sympetrum frequens*

トンボ目トンボ科。日本の代表的なトンボの一つ。春に平地で羽化した成虫は標高の高い地域などの涼しい地域に移動し、夏の間を過ごす。秋になると十分に成熟して再び平地に移動し、いわゆる「赤とんぼ」の代表種として各地で群れを成して飛ぶ。夏の間も比較的涼しい浅虫では夏の間によく見られる。



ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum*

トンボ目トンボ科。アカトンボの一種で、翅の先が黒くなるのが特徴。アキアカネやナツアカネの群れに交じって飛んでいるところを見かけることが多い。



ハマベハサミムシ *Anisolabis maritime*

ハサミムシ目マルムネハサミムシ科。平地から丘陵地で普通に見られるほか、「ハマベ」という名の通り浜辺に打ち上げられた漂着物の下に見られることも多い。成虫で越冬する。



ハネナガフキバツタ *Ognevia longipennis*

バッタ目バッタ科。翅が長くよく飛ぶ。ブナ林の林縁などを好むことから、夏緑樹林帯に属する浅虫では数多く見られる。



ミカドフキバツタ *Parapodisma mikado*

バッタ目バッタ科。成虫になっても小さく丸い翅しか持たず、飛んで移動することができない。そのため、このフキバツタの仲間は地域によって様々な種や個体変異が見られる。



ヒロバネヒナバツタ *Stenobothrus fumatus*

バッタ目バッタ科。低山地の林縁の草地で普通に見られる。黒っぽい個体から黄色っぽい個体まで多くの変異が見られ、中にはピンク色のものも出現する。



ナギサズ *Caconemobius sazanami*

バッタ目ヒバリモドキ科。「ナギサ」の名の通り、海岸沿いに生息する種である。翅は完全に退化している。浅虫では、研究施設前の防波堤でハサミムシやフナムシと混生しているのが見られる。



カンタン *Oecanthus longicauda*

バッタ目マツムシ科。ルルルルル...と低く鳴く声は人間にとってもっとも心地よい音域とも言われ、「鳴く虫の女王」とも言われる。草地や河川敷などに普通に生息するが、なかなかその姿を見ることは少ない。



ハネナシコロギス *Nippancistroger testaceus*

バッタ目コロギス科。翅がなく、グロテスクな姿をしている。「コロギス」という名前は、コオロギとキリギリスの中間のような姿をしていることから。



ヤブキリ *Tettigonia orientalis*

バッタ目キリギリス科。夜行性で、林縁などで普通に見られる。獐猛な肉食性で、相手が幼虫ならカマキリまでも捕食する。



ホソクビツムシ *Shirakisotima japonica*

バッタ目ツムシ科。ブナ林の樹上に生息することから、浅虫では平地でも見られる。



コバネササキリモドキ *Cosmetura fenestrata*

バッタ目ササキリモドキ科。樹上に生息し、翅は退化している。浅虫では低木の葉上にとまっているところをよく見かける。



ミミズク *Ledra auditura*

カメムシ目ヨコバイ科。耳のような一対の突起をもつ変わった姿をしている。日中はじっとしているが、灯火にはよく飛来する。ブナ科のクヌギなどにつく。



シロオビアワフキ *Aphrophora intermedia*

カメムシ目アワフキムシ科。「アワフキムシ」という名は、幼虫が泡を分泌しその中に隠れる習性から。ヤナギやクワ、バラなど様々な植物につく。



クロフアワフキ *Sinophora submacula*

カメムシ目アワフキムシ科。山地性で、トドマツ類につく。



コガシラアワフキ *Euscartopsis assimilis*

カメムシ目コガシラアワフキムシ科。その名の通り普通のアワフキムシに比べて頭が小さい。ヨモギ類につく。



エゾゼミ *Lyristes japonicas*

カメムシ目セミ科。「エゾ」とつくが全国各地の山地に生息する。頭を下にしてとまるのが特徴的。「ギー」と鳴く。



ツマジロカメムシ *Menida violacea*

カメムシ目カメムシ科。背中の中白紋が目立つ。クヌギやイタドリなどの葉上で普通にみられる。



エサキモンキツノカメムシ *Sastragala esakii*
カメムシ目ツノカメムシ科。背中の中ハート模様が特徴的。メスは幼虫の子育てをすることで知られている。ミズキやハゼノキにつく。



オオツマキヘリカメムシ *Hygia lativentris*
カメムシ目ヘリカメムシ科。近似種のツマキヘリカメムシとは交尾器の形状で見分けられる。山間部のノイバラやイタドリなどの茎につき、しばしば群生する。浅虫ではイタドリの茎に群生していた。



ヒョウタンカスミカメ *Pilophorus setulosus*
カメムシ目カスミカメムシ科。近似種が多く、本種も誤同定の可能性がある。



アオオサムシ *Carabus insulicola*
コウチュウ目オサムシ科。「アオ」とつくが地域ごとに色彩には変異が見られ、赤っぽい個体から鮮やかな緑色の個体まで存在する。夜行性で、地上を徘徊して獲物を探す。



マイマイカブリ *Damaster blaptoides*
コウチュウ目オサムシ科。大型のオサムシで、かたつむりを専門に食べることで知られている。なお、写真の個体は東北地方北部に生息する亜種キタマイマイカブリで、背中中の紫色の光沢が特徴である。



ハラアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes japonicas*
コウチュウ目オサムシ科。小型のゴミムシ。背中に青緑色の光沢がある。



ハイイロハネカクシ *Euclidelus japonicus*

コウチュウ目ハネカクシ科。肉食性で、花や樹液に集まる他の昆虫を待ち伏せて捕える。小さい前翅の下に後翅を隠すように折りたんで収納していることから「ハネカクシ」という。



オオクシヒゲコムツキ *Tetrigus lewisi*

コウチュウ目コムツキムシ科。大型で、櫛状の立派な触角をもつ。



ヘイケボタル *Luciola lateralis*

コウチュウ目ホタル科。ゲンジボタルと並ぶ日本の代表的なホタルで、自然の豊かな湿地や水田に生息する。浅虫での生息数は比較的多いと考えられ、7月頃には多くの個体が発光しながら飛ぶ様子が観察できる。



クロマドボタル *Pyrocoelia fumosa*

コウチュウ目ホタル科。幼虫(写真)が発光することで知られ、成虫になると発光しない。成虫のオスは黒く、背中に一対の窓のような半透明紋がある。成虫のメスは翅が退化し、全身が淡黄色である。



クシヒゲベニボタル *Macrolycus flabellatus*

コウチュウ目ベニボタル科。「ホタル」とつくが分類上はホタルの仲間ではない。櫛状の触角が特徴である。



ハムシダマシ *Lagria rufipennis*

コウチュウ目ハムシダマシ科。ハムシに似るが分類上はゴミムシダマシなどに近い。翅には細かい毛がたくさん生えている。



トガリシロオビサビカミキリ *Pterolophia caudate*
コウチュウ目カミキリムシ科. 翅の先が尖る. フジなどの枯れヅルや枯れ木に集まる.



ピロウドカミキリ *Acalolepta fraudatorix fraudatorix*
コウチュウ目カミキリムシ科. 翅に密生した細かい毛がピロウドを思わせることからこのような名がついた. アカマツやサクラ, クワなどの倒木に集まる.



アカガネサルハムシ *Acrothinium gaschkevitchii*
コウチュウ目ハムシ科. 小さいものの, タマムシを思わせるような緑や赤の美しい模様と光沢をもつ. ブドウの害虫として知られる.



リンゴコフキハムシ *Lypesthes ater*
コウチュウ目ハムシ科. 全身が白い粉のようなものに覆われているが, 実際の体色は黒色である. クヌギ, ウメ, リンゴなどの葉を食べる.



サンゴジュハムシ *Pyrrhalta humeralis*
コウチュウ目ハムシ科. サンゴジュなどの害虫として知られる.



ヒメジンガサハムシ *Cassida fusciorufa*
コウチュウ目ハムシ科. 侍がかぶる陣笠を思わせるような形をしていることからこのような名がついた. ヨモギの葉を食べ.



ヒゲナガオトシブミ *Paratrachelophorus longicornis*
コウチュウ目オトシブミ科。オトシブミの仲間は葉を巻いたり茎を切り落としたりして卵を産む習性があるが、本種はコブシやイタダリの葉を切って巻く。「ヒゲナガ」というが、オスは首が非常に長く、「クビナガ」といった方がしっくりくる。



オオゴボウゾウムシ *Larinus meleagris*
コウチュウ目ゾウムシ科。大型のゾウムシ。山地に生息し、ゴボウやアザミに集まる。



オオゾウムシ *Sipalinus gigas*
コウチュウ目オサゾウムシ科。日本最大級のゾウムシの一つ。鎧のような体でゆっくりと歩く様子は本当にゾウのようである。体が非常に硬いことで知られ、標本をつくる際には針を刺しにくいと言われる。



キアシナガバチ *Polistes rothneyi*
ハチ目スズメバチ科。最も大型かつポピュラーなアシナガバチの一つで、全国に広く分布する。他の昆虫を肉団子状にして食べるほか、花の蜜をなめにくることもある。浅虫では海岸沿いの木柵で巣材を集める様子などが観察できる。



ウラジロミドリシジミ *Favonius saphirinus*
チョウ目シジミチョウ科。初夏にかけて発生するゼフィルスと呼ばれる一群の一種。オスの翅は美しい光沢のある緑色をしている。幼虫はブナ科のカシワなどを食す。



ジャノメチョウ *Minois dryas*
チョウ目タテハチョウ科。「蛇の目」の由来である三対の眼状紋は中が青色をしていて美しい。翅の地色の濃淡には変異がある。明るい環境を好み、幼虫はそのような環境に多いイネ科のススキやカヤツリグサ科のヒカゲスゲなどを食す。



ダイミョウセセリ *Daimio Tethys*

チョウ目セセリチョウ科。明るい林縁を素早く飛び、通常翅を開いてとまる。幼虫はヤマノイモ科のヤマノイモなどを食し、その葉をつづって巣をつくることが知られている。



Thymelicus属の一種 *Thymelicus* sp.

チョウ目セセリチョウ科。スジグロチャバネセセリかヘリグロチャバネセセリのどちらかだと思われるが、この写真では判別できない。明るい草地を素早く飛び、各種の花を訪れる。里山環境の変化により全国各地で絶滅が心配されており、特に東北地方では生息地が減っていると言われている。幼虫はイネ科やカヤツリグサ科の植物を食す。



オオボシオオスガ *Yponomeuta polystictus*

チョウ目スガ科。白地に黒い斑点が並んだ細長い蛾。幼虫はニシキギ科のマユミを食す。



クロマイコモドキ *Lamprystica igneola*

チョウ目マルハキバガ科。黄色や赤色のメタリックな光沢をもつ。幼虫はイタドリ科のイタドリを食す。成虫は昼行性で、浅虫ではイタドリ群落の周りを数多くの成虫が飛び回る様子を観察できる。



フジフサキバガ *Dichomeris oceanis*

チョウ目キバガ科。キバガの仲間は口の部分に一對のキバのようなものをもつのが特徴。幼虫はマメ科のフジなどを食す。



クロシタアオイラガ *Parasa sinica*

チョウ目イラガ科。幼虫はブナ科のクヌギやバラ科のサクラを食し、毒も持つことからしばしば害虫とされる。



ヒメボクトウ *Cossus insularis*

チョウ目ボクトウガ科。幼虫は集団でバラ科のナシやリンゴなど様々な樹木の内部に侵入し、材部を食べながら成長するため、樹木を弱らせたり場合によっては枯死させたりする害虫として知られている。



アカフツツリガ *Lamoria glaucalis*

チョウ目メイガ科。近縁種のおオツツリガに酷似するため同定には注意を要する。幼虫の寄主植物はまだ知られていない。



アオフトメイガ *Orthaga olivacea*

チョウ目メイガ科。緑色の斑紋には変異が見られ、中には黄土色に変色する個体も現れる。幼虫はクスノキ科のクスノキやタブノキを食す。



シロテンキノメイガ *Nacoleia commixta*

チョウ目ツトガ科。非常に小さく、前翅の模様が美しい。幼虫の寄主植物はまだ知られていない。



キモンウスグロノメイガ *Herpetogramma magnum*

チョウ目ツトガ科。山地性だと考えられている。幼虫はブドウ科のツタなどを食す。



ヨツボシノメイガ *Talanga quadrimaculalis*

チョウ目ツトガ科。ノメイガの仲間では比較的大型で、黒地に白紋のコントラストが美しい。山地に多いと言われる。幼虫の寄主植物はまだ知られていない。



マツカレハ *Dendrolimus spectabilis*

チョウ目カレハガ科. 黄色っぽい個体から赤褐色の個体まで変異が激しい. マツ科を食草とするため, アカマツ林が広く見られる浅虫では個体数が多いと考えられる. 幼虫は「マツケムシ」と呼ばれ, マツ類の害虫として有名.



オオミズアオ *Actias aliena aliena*

チョウ目ヤマユガ科. 大型で美しく, 日本の蛾の中で最も有名な種の一つ. 闇夜を優雅に飛ぶ姿は, かつての学名から「月の女神」とも称される. 幼虫はサクラなど様々な樹種を食するため, 都心でも見られる.



モモズメ *Marumba gaschkewitschii echepron*

チョウ目ズメガ科. その名の通り後翅は美しい桃色. 幼虫はバラ科の植物を主に食す.



エゾシモフリスズメ *Meganoton analis scribeae*

チョウ目ズメガ科. 翅を広げると10cmを優に超える大型の蛾. 「エゾ」とつくが全国に分布. 幼虫はモクレン科を食す.



Abraxas属の一種 *Abraxas* sp.

チョウ目シャクガ科. マダラエダシャクの仲間だと思われるが写真での判別は難しい.



ハグルマエダシャク *Synegia hadassa hadassa*

チョウ目シャクガ科. 似た種が多く同定には注意を要する. 幼虫はモチノキ科のアオハダなどを食す.



ヒロオビトンボエダシャク *Cystidia truncangulata*
 チョウ目シャクガ科。昼飛性でクリの花に好んで集まり吸蜜する。
 幼虫はニシキギ科のツルウメモドキを食す。



リンゴツノエダシャク *Phthonosema tendinosarium*
 チョウ目シャクガ科。地域ごとに色調に変異が見られ、一般に寒地から暖地にかけて濃くなる傾向がある。幼虫は針葉樹から草本までさまざまな植物を食す。



キリバエダシャク *Ennomos nephotropa*
 チョウ目シャクガ科。山地に生息する。幼虫はさまざまな広葉樹を食す。



ムラサキエダシャク *Selenia tetralunaria*
 チョウ目シャクガ科。シャクガでは珍しく、翅を立てる変わった止まり方をする。幼虫はさまざまな広葉樹を食す。



シロツバメエダシャク *Ourapteryx maculicaudaria*
 チョウ目シャクガ科。灯火に数多く飛来する一方で、ときには昼間に花で吸蜜することもある。近似種が多く同定には注意を要する。幼虫はイチイ科のイチイやマツ科のトウヒなどを食す。



チズモンアオシャク *Agathia carissima carissima*
 チョウ目シャクガ科。鮮やかな緑色が美しいアオシャクの仲間。幼虫は明るい環境のコイケマ、ガガイモの花蕾や葉を食す。



ハラアカアオシャク *Chlorissa amphitritaria*

チョウ目シャクガ科。全国に広く分布する。その名の通り腹部が赤味を帯びる。近似種が多く同定には注意を要する。幼虫はブナ科のクリやバラ科のリンゴなどを食す。



コヨツメアオシャク *Comostola subtiliaria nympha*

チョウ目シャクガ科。各翅に赤い斑紋をもつのが「ヨツメ」の由来。幼虫はさまざまな植物の葉や花蕾、花穂を食す。



フタシロスジナミシャク *Epirrhoe supergressa supergressa*

チョウ目シャクガ科。全国に広く分布する。幼虫はアカネ科のヤエムグラなどを食す。



ホソバシャチホコ *Fentonia ocypete*

チョウ目シャチホコガ科。シャチホコガの仲間は中型から大型で、特徴的な形態や模様をもった種が多いことで知られるが、この種は地味な部類に入る。幼虫はミズナラやクヌギなど、広くブナ科の植物を食す。



クビワシャチホコ *Shaka atrovittatus*

チョウ目シャチホコガ科。一般に暖地に行くほど地色が濃くなる傾向がある。幼虫はムクロジ科カエデ属の植物を食す。



ルリモンシャチホコ *Peridea oberthueri*

チョウ目シャチホコガ科。北に行くほど地色が明るくなり、特に北海道・東北地方ではそれが顕著になるとされる。幼虫はカバノキ科のハンノキなどを食す。



コフタオビシャチホコ *Gluphisia crenata crenata*
 チョウ目シャチホコガ科. 幼虫はヤナギ科のヤマナラシを食す.



カシワマイマイ *Lymantria mathura aurora*
 チョウ目ドクガ科. オスとメスとで形態が大きく異なり, オスは小型で黄色から黒色の翅, メスは大型で淡い赤色の後翅をもつ. 幼虫はブナ科やバラ科, ニレ科などさまざまな樹木を食し, 害虫として知られる.



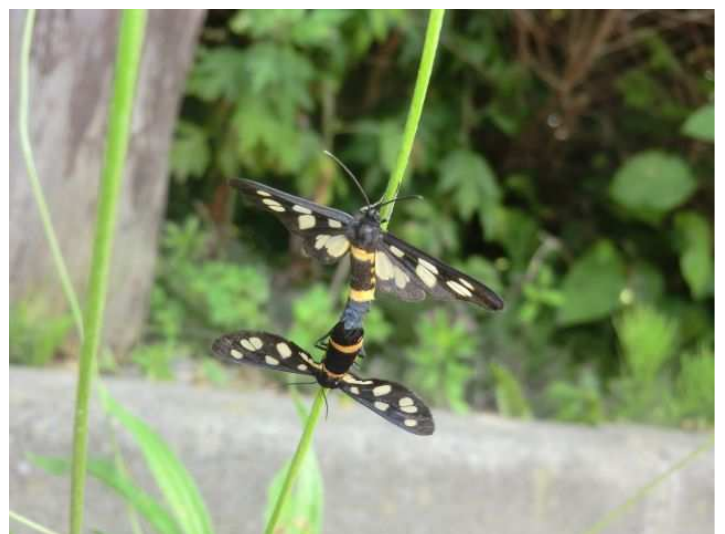
ドクガ *Artaxa subflava*
 チョウ目ドクガ科. その名の通り幼虫, 成虫ともに毒針毛をもち, 触れると皮膚がかぶれる. 幼虫はブナ科やバラ科, タデ科の植物を食し, 害虫とされている.



アカスジシロコケガ *Cyana hamata hamate*
 チョウ目ヒトリガ科. コケガという名の通り, 幼虫は地衣類を食す.



ゴマダラベニコケガ *Barsine pulchra leacrita*
 チョウ目ヒトリガ科. ヒトリガの仲間は赤色や黄色などきれいな模様をもつものが多いが, この種もその例にもれず鮮やかなピンク色が美しい. 幼虫の寄主植物はまだ知られていない.



カノコガ *Amata fortunei fortune*
 チョウ目ヒトリガ科. 「カノコ」とは「鹿の子」と書き, 翅の模様がその由来とされる. 朝によく飛翔する. 幼虫はキク科のタンポポ類やタデ科のスイバなどを食す.



アマヒトリ *Phragmatobia amurensis japonica*

チョウ目ヒトリガ科。北海道及び東北地方から中部地方にかけての山地に生息するため、涼しい環境を好むと考えられる。そのためか全体的に毛深い印象。幼虫はアマ科のアマやキク科のタンポポ類などを食す。



シロヒトリ *Chionarctia nivea*

チョウ目ヒトリガ科。大型。翅は純白で模様はない。翅を開くと腹部の赤い斑紋が見える。幼虫はタデ科やキク科の草本を食す。



シロスジアツバ *Bertula spacoalis*

チョウ目ヤガ科。幼虫は広葉樹類の枯葉を食す。



ヒメシロシタバ *Catocala nagioides* チョウ目ヤガ科。

幼虫はブナ科のカシワを食す。コシロシタバとは後翅の斑紋が似るが、白い斑紋の大きさで見分けられる。青森県レッドデータブックではDランク(情報不足)に指定されている。また、本種以降6種にわたって紹介する「〇〇シタバ」という蛾の仲間は、その属学名から「カトカラ」と呼ばれ、後翅の美しい模様のため愛好者が多い。



オニベニシタバ *Catocala dula dula*

チョウ目ヤガ科。後翅には赤い模様をもつ。幼虫はブナ科のミズナなどを食す。



ベニシタバ *Catocala electa zalmunna*

チョウ目ヤガ科。後翅には赤い模様をもち、その色は全種よりも鮮やかに思える。浅虫ではバナナトラップに集まっていた。幼虫はヤナギ科のイヌコリヤナギなどを食す。



ワモンキシタバ *Catocala fulminea xarippe*
 チョウ目ヤガ科. 後翅には黄色い模様をもつ. 東日本では普通種. 北海道に生息するキララキシタバに似る. 幼虫はバラ科のスモモなどを食す.



ジョナスキシタバ *Catocala jonassii*
 チョウ目ヤガ科. 後翅には黄色い模様をもつ. 他のカトカラと比べて翅が細長い. 幼虫はニレ科のケヤキを食す.



キシタバ *Catocala patala*
 チョウ目ヤガ科. 後翅には黄色い模様をもつ. ○○キシタバと呼ばれる蛾の中では最大. 通常樹液に集まるが, 浅虫ではバナナトラップに集まっていた. 幼虫はマメ科のフジなどを食す.



ムクゲコノハ *Thyas juno*
 チョウ目ヤガ科. 大型. 前翅は枯葉を思わせる地味な模様だが, 後翅は赤い縁取りに黒い斑紋, その中に青白い模様をもつ美しい蛾である. 通常樹液に集まるが, 浅虫ではバナナトラップに集まっていた. 幼虫はブナ科のクヌギやクルミ科のオニグルミなどを食す.



ウスキコヤガ *Oruza brunnea*
 チョウ目ヤガ科. 幼虫の寄主植物はまだ知られていない.



オオウスツマカラスヨトウ *Amphipyra erebina*
 チョウ目ヤガ科. 浅虫ではバナナトラップに数多く集まっていた. 幼虫はブナ科のアラカシやニレ科のクヌギなどを食す.



カラスヨトウ *Amphipyra livida corvine*

チョウ目ヤガ科。その名の通り前翅は光沢のある黒色。幼虫はキク科のタンポポ類やブドウ科のヤブガラシなどを食す。



シロスジキノコヨトウ *Stenoloba jankowskii*

チョウ目ヤガ科。背中の鶏冠のような突起が特徴的。止まっている姿は鳥の糞に擬態しているとも言われる。幼虫の寄主植物はまだ知られていない。



キシタキリガ *Cosmia moderata*

チョウ目ヤガ科。近似種が多く同定には注意を要する。幼虫の寄主植物はまだ知られていない。



ヤンコウスキーキリガ *Xanthocosmia jankowskii*

チョウ目ヤガ科。斑紋はきわめて特徴的で美しく、全国に分布するものの生息地が局所的であるために蛾愛好家には人気がある。浅虫では数多くの個体が灯火に飛来していたため、生息個体数は多いと考えられる。幼虫はアオイ科のシナノキを食す。

脊椎動物門 VERTEBRATA

両生綱 Amphibia



モリアオガエル *Rhacophorus arboreus*

無尾目アオガエル科。体長5～8cmの大型のカエルである。水辺の木の上に白い泡状の卵塊を産むことで知られ、各地で天然記念物に指定されている。

爬虫綱 Reptilia



ジムグリ *Elaphe conspicillata*

有鱗目ナミヘビ科。体長70～100cmの中型のヘビで、毒はもたない。林床を好み、よく地中に潜ることから「地潜」と名付けられたという。背面は赤褐色に黒い斑紋、腹面は白と黒の市松模様になるのが普通だが、写真の個体は寒い地域でまれに見られる腹板が白化する変異個体である。

掲載種一覧

綱	目	科	和名	学名	ページ
昆虫綱	Insecta				
	トンボ目	Odonata			
		モノサシトンボ科 Platycnemididae	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>	1
		エゾトンボ科 Corduliidae	タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>	1
		トンボ科 Libellulidae	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	2
			ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>	2
	ハサミムシ目	Dermaptera			
		マルムネハサミムシ科 Carcinophoridae	ハマベハサミムシ	<i>Anisolabis maritima</i>	2
	バッタ目	Orthoptera			
		バッタ科 Acrididae	ハネナガフキバッタ	<i>Ognevia longipennis</i>	2
			ミカドフキバッタ	<i>Parapodisma mikado</i>	2
			ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>	2
		ヒバリモドキ科 Trigonidiidae	ナギサスズ	<i>Caconemobius sazanami</i>	3
		カンタン科 Eneopteridae	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>	3
		コロギス科 Gryllacrididae	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>	3
		キリギリス科 Tettigoniidae	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>	3
		ツユムシ科 Phaneropteridae	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>	3
		ササキリモドキ科 Meconematidae	コバネササキリモドキ	<i>Cosmetura fenestrata</i>	3
	カメムシ目	Hemiptera			
		ヨコバイ科 Cicadellidae	ミミズク	<i>Ledra auditura</i>	4
		アワフキムシ科 Aphrophoridae	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i>	4
			クロフアワフキ	<i>Sinophora submacula</i>	4
		コガシラアワフキムシ科 Cercopidae	コガシラアワフキ	<i>Euscartopsis assimilis</i>	4
		セミ科 Cicadidae	エゾゼミ	<i>Lyristes japonicus</i>	4
		カメムシ科 Pentatomidae	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>	4
		ツノカメムシ科 Acanthosomatidae	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>	5
		ヘリカメムシ科 Coreidae	オオツマキヘリカメムシ	<i>Hygia lativentris</i>	5
		カスミカメムシ科 Miridae	ヒョウタンカスミカメ	<i>Pilophorus setulosus</i>	5
	コウチュウ目	Coleoptera			
		オサムシ科 Caradidae	アオオサムシ	<i>Carabus insulicola</i>	5
			マイマイカブリ	<i>Damaster blaptoides</i>	5
			ハラアカモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes japonicus</i>	5
		ハネカクシ科 Staphylinidae	ハイイロハネカクシ	<i>Eucibdelus japonicus</i>	6
		コメツキムシ科 Elateridae	オオクシヒゲコメツキ	<i>Tetrigus lewisi</i>	6
		ホタル科 Lampyridae	ヘイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>	6
			クロマドボタル	<i>Pyrocoelia fumosa</i>	6
		ベニボタル科 Lycidae	クシヒゲベニボタル	<i>Macrolycus flabellatus</i>	6
		ハムシダマシ科 Lagriidae	ハムシダマシ	<i>Lagria rufipennis</i>	6
		カミキリムシ科 Cerambycidae	トガリシロオビサビカミキリ	<i>Pterolophia caudata</i>	7
			ビロウドカミキリ	<i>Acalolepta fraudatorix fraudatorix</i>	7
		ハムシ科 Chrysomelidae	アカガネサルハムシ	<i>Acrothinium gaschkevitchii</i>	7
			リンゴコフキゾウムシ	<i>Lypesthes ater</i>	7
			サンゴジュハムシ	<i>Pyrrhalta humeralis</i>	7
			ヒメジンガサハムシ	<i>Cassida fuscorufa</i>	7
		オトシブミ科 Attelabidae	ヒゲナガオトシブミ	<i>Paratrachelophorus longicornis</i>	8
		ゾウムシ科 Curculionidae	オオゴボウゾウムシ	<i>Larinus meleagris</i>	8
		オサゾウムシ科 Rhynchophoridae	オオゾウムシ	<i>Sipalinus gigas</i>	8

綱	目	科	和名	学名	ページ
昆虫綱	Insecta				
	ハチ目	Hymenoptera			
		スズメバチ科 Vespidae	キアシナガバチ	<i>Polistes rothneyi</i>	8
	チョウ目	Lepidoptera			
		シジミチョウ科 Lycaenidae	ウラジロミドリシジミ	<i>Favonius saphirinus</i>	8
		タテハチョウ科 Nymphalidae	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>	8
		セセリチョウ科 Hesperidae	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	9
			Thymelicus属の一種	<i>Thymelicus sp.</i>	9
		スガ科 Yponomeutidae	オオボシオオスガ	<i>Yponomeuta polystictus</i>	9
		マルハキバガ科 Oecophoridae	クロマイコモドキ	<i>Lamprystica igneola</i>	9
		キバガ科 Gelechiidae	フジフサキバガ	<i>Dichomeris oceanis</i>	9
		イラガ科 Limacodidae	クロシタアオイイラガ	<i>Parasa sinica</i>	9
		ボクトウガ科 Cossidae	ヒメボクトウ	<i>Cossus insularis</i>	10
		メイガ科 Pyralidae	アカフツツリガ	<i>Lamoria glaucalis</i>	10
			アオフトメイガ	<i>Orthaga olivacea</i>	10
		ツトガ科 Crambidae	シロテンキノメイガ	<i>Nacoleia commixta</i>	10
			キモンウスグロノメイガ	<i>Herpetogramma magnum</i>	10
			ヨツボシノメイガ	<i>Talanga quadrimaculalis</i>	10
		カレハガ科 Lasiocampidae	マツカレハ	<i>Dendrolimus spectabilis</i>	11
		ヤママユガ科 Saturniidae	オオミズアオ	<i>Actias aliena aliena</i>	11
		スズメガ科 Sphingidae	モモスズメ	<i>Marumba gaschkewitschii echephron</i>	11
			エゾシモフリスズメ	<i>Meganoton analis scribae</i>	11
		シャクガ科 Geometridae	Abraxas属の一種	<i>Abraxas sp.</i>	11
			ハグルマエダシャク	<i>Synegia hadassa hadassa</i>	11
			ヒロオビトンボエダシャク	<i>Cystidia truncangulata</i>	12
			リングツノエダシャク	<i>Phthonosema tendinosarium</i>	12
			キリバエダシャク	<i>Ennomos nephotropia</i>	12
			ムラサキエダシャク	<i>Selenia tetralunaria</i>	12
			シロツバメエダシャク	<i>Ourapteryx maculicaudaria</i>	12
			チズモンアオシャク	<i>Agathia carissima carissima</i>	12
			ハラアカアオシャク	<i>Chlorissa amphitritaria</i>	13
			コヨツメアオシャク	<i>Comostola subtiliaria nympha</i>	13
			フタシロスジナミシャク	<i>Epirrhoe supergressa supergressa</i>	13
		シャチホコガ科 Notodontidae	ホソバシャチホコ	<i>Fentonia ocypete</i>	13
			クビワシャチホコ	<i>Shaka atrovittatus</i>	13
			ルリモンシャチホコ	<i>Peridea oberthueri</i>	13
			コフタオビシャチホコ	<i>Gluphisia crenata crenata</i>	14
		ドクガ科 Lymantriidae	カシワマイマイ	<i>Lymantria mathura aurora</i>	14
			ドクガ	<i>Artaxa subflava</i>	14
		ヒトリガ科 Arctiidae	アカスジシロコケガ	<i>Cyana hamata hamata</i>	14
			ゴマダラベニコケガ	<i>Barsine pulchra leacrita</i>	14
			カノコガ	<i>Amata fortunei fortunei</i>	14
			アマヒトリ	<i>Phragmatobia amurensis japonica</i>	15
			シロヒトリ	<i>Chionarctia nivea</i>	15
		ヤガ科 Noctuidae	シロスジアツバ	<i>Bertula spacoalis</i>	15
			ヒメシロシタバ	<i>Catocala nagioides</i>	15
			オニベニシタバ	<i>Catocala dula dula</i>	15
			ベニシタバ	<i>Catocala electa zalmunna</i>	15
			ワモンキシタバ	<i>Catocala fulminea xarippe</i>	16
			ジョナスキシタバ	<i>Catocala jonasii</i>	16
			キシタバ	<i>Catocala patala</i>	16
			ムクゲコノハ	<i>Thyas juno</i>	16
			ウスキコヤガ	<i>Oruza brunnea</i>	16
			オオウスツマカラスヨトウ	<i>Amphipyra erebina</i>	16
			カラスヨトウ	<i>Amphipyra livida corvina</i>	17
			シロスジキノコヨトウ	<i>Stenoloba jankowskii</i>	17
			キシタキリガ	<i>Cosmia moderata</i>	17
			ヤンコウスキーキリガ	<i>Xanthocosmia jankowskii</i>	17
両生綱	Amphibia				
	無尾目	Anura			
		アオガエル科 Rhacophoridae	モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i>	18
爬虫綱	Reptilia				
	有鱗目	Squamata			
		ナミヘビ科 Colubridae	ジムグリ	<i>Elaphe conspicillata</i>	18